

稲作転換と雑草防除

多事の中に暮れようとしている昭和52年をかえりみると、日本農業の上にも大きな変化の波が押し寄せていることを感ずる。米の生産調整に基づいて、約40万haに及ぶ水稲作の転換は最大の関心事となっている。各県においては、異常な決意を以て作目転換と取り組まねばならないだろう。しかも、これが2～3年の短期のものでないと予測される。このような変化は、雑草防除の領域にも問題を投げかけるものと考ええる。作物や耕種体系の変化は、雑草の生態にも影響を与えずにはおかない。特定雑草の衰退や新しい雑草の定着・蔓延に及ぶこともある。近年、水田の多年生雑草が著しく増殖した契機についてはすでによく知られているところである。European Weed Research Councilの会長J. D. FRYER氏は、世界の小麦地帯で例外なくカラスムギの雑草害に悩まされているのは、かつての輪作体系が単に移行したためであると指摘している。もしそうであるならば、よく計画された作付体系の中には、雑草の生態防除の要因が包蔵されているものとせねばならない。ヤサイ産地の水田地帯では、田畑転換をふくめた輪作体系を組むことによって、生態的雑草防除の効果を収めて来たと思われるが、一般の水田地帯ではそこまで至っていない。したがって、今回の転換田における耕種の成り立ちを、かなりの精度で期待するならば、雑草の総合防除的な効果も見られる筈である。一方、稲作に代わる作目選定の困難な実情のもとで、申し分け的な作付による粗放化のおそれなしとしない。いずれにしても、雑草防除の面でも新しい問題が随伴することは確実である。今から十分に警戒し

目 次

(第11巻第9号)

アメリカの一人旅 2

—雑草防除の見聞記—

<農事試験場畑作部 高林 実>

1. 学名 (Scientific name)
 - は国際語 2
2. コーンベルト 3
3. 園芸の先生と 4
4. 水生雑草と女性教授 5
5. 雑草学の授業 5
6. 帰化雑草 6
7. 文献紹介 7

水田雑草種子の休眠・発芽・出芽 8

<農事試験場作物部 古谷勝司>

1. 休 眠 8
2. 発 芽 10
3. 出 芽 13
4. 出芽消長 14
- む す び 15

ミカンの薬剤摘果について 16

—最近供試した薬剤から—

<果樹試験場興津支場 広瀬和栄>

- J-455 17
- SLG-522, TPA 20

外国文献抄録 22

YH-90水和剤の判定変更について 24

除草剤使用面積一覧表 24

てかかる必要があろう。

(財団法人日本植物調節剤研究協会試験委員長 天辰克己)